

「動画でCHECK！」
で安全・安心



コンバイン セルフメンテナンス

動画をみながら点検にトライ！
～機械を長持ちさせるための点検ポイント～

「農作業安全&熱中症対策もあわせてチェック！」



衣服の巻き込まれ注意！



ヘルメット、保護メガネ装着



作業中は人を近づけない！



着座して操作する！



刈取中は手を出さない！



開閉部、駆動部に注意！



手こぎ作業は
少しずつ場所移動



JAえちご上越 農業機械課

はじめに

本資料は、組合員の皆様が自らの手で農業機械のメンテナンスを実施していただくためのポイントを整理したものです。

日頃から定期的な点検および調整を実施していただくことが、使用時のトラブル減少や機械の長持ちにつながりますし、機械の修理整備費用の低減にも有効です。

この資料を参考に是非日頃のメンテナンスをお願いいたします。

なお、この資料で記載した内容や写真は一部メーカーの特定型式を例にして説明しています。

皆様所有の機械とは点検個所の場所や点検・調整方法が異なる場合がありますので、必ず機械付属の取扱説明書とあわせて確認いただきましょうようお願いいたします。

セルフメンテナンス実施にあたっての注意事項

- ◆ 取扱説明書で必ず注意事項や点検・調整内容の確認をしてください。
- ◆ 作業帽（ヘルメット）、安全ぐつ、作業着などの作業に適した服装で作業をしてください。
- ◆ エンジンを始動する場合は、各変速レバーを中立にし駐車ブレーキをかけてから始動してください。
- ◆ 倉庫内等でエンジン始動する場合は、換気に注意してください。
- ◆ 点検・調整や掃除を実施する場合は、エンジンを止め機械の各部が停止していることを確認してください。
- ◆ エンジン停止直後はマフラー等が高温になっています。十分に冷めてから作業を行ってください。
- ◆ 点検・調整時は、平たんな場所で必ず各変速レバーは中立にし駐車ブレーキをかけて実施してください。
- ◆ 刈取部を持ち上げて点検作業等を行う場合は、必ず油圧ロックをしてください。
- ◆ 点検・調整に使用する工具は必ず適正な工具を使用してください。
- ◆ 点検・調整作業でご不明な点があった場合はJA農機センターにご相談ください。

- ◆ 近年の排出ガス規制に対応したエンジンは、コモンレールエンジンやDPF（ディーゼルパティーキュレートフィルター）が搭載されており、高温、高圧力、高電圧になる箇所があります。取扱説明書で確認いただくとともに不調時は必ずJA農機センターにご相談ください。

- ◆ 機械から抜き取った廃油や冷却水、フィルターや不要部品等は必ず産業廃棄物処理業者へ依頼し、処分してください。

動画でCHECK！



目次

<全体>

11. ヒューズ・配線	P8
15. 各部チェーン	P10
19. 各部ベルト	P12
23. 各部の注油とグリスアップ	P14
24. 各部の掃除	P15
25. 長期格納時の注意事項	P15

<キャビン>

22. エアコンフィルター	P13
---------------	-----

<脱穀部・排わら部>

16. 受網	P10
17. こぎ刃	P11
18. わら切刃	P11
20. カッター刃	P12

<エンジン回り>

1. エンジンオイル	P3
2. エンジンオイルフィルター	P3
3. 防塵スクリーン	P4
4. 冷却水	P4
5. ラジエータホース	P5
6. ファンベルト	P5
7. 燃料フィルター	P6
8. 燃料ホース	P6
9. エアクリーナ	P7
10. バッテリー	P7

<ミッション・油圧>

12. ミッションオイル	P8
--------------	----

<走行部>

21. クローラ	P13
----------	-----

<刈取部>

13. 引起し爪	P9
14. 刈刃	P9



メンテナンスは作業に適した服装で！！

銘柄や型式により各点検項目の場所が異なる場合がありますので取扱説明書で確認をお願いします。

1 エンジンオイル

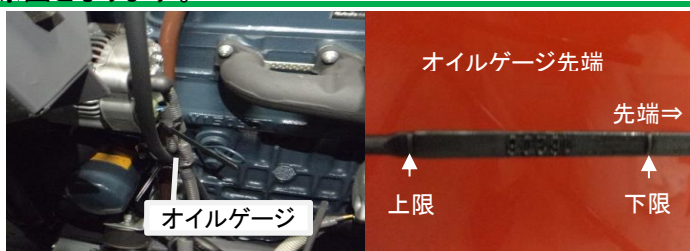
動画でCHECK！



- 【働き】 ● エンジン内部の潤滑や冷却、洗浄、防錆、密封を行います。
● エンジンオイルが不足したり劣化した場合、オーバーヒートや出力低下、白煙の発生をまねき、最終的には焼き付きの原因となります。

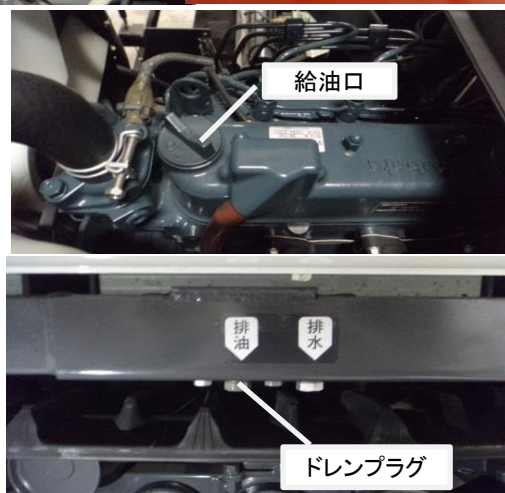
点検方法

- ① オイルゲージを抜き出し、きれいなウエスで先端のオイルをふき取り、汚れを確認します。
- ② 再度オイルゲージを差し込んだ後、抜き出してゲージの上限と下限の間にオイルが付着していることを確認します。



交換方法(調整方法)

- ① エンジンオイルの交換は、エンジンを暖機運転後停止し、十分冷えてから実施します。
 - ② エンジン下部のドレンプラグを外してオイルを抜き取ります。
 - ③ 完全に抜け切った状態でドレンプラグを元の状態に戻します。
 - ④ 給油口からエンジンオイルを規定量入れ、5分程度放置した後オイルゲージでオイルの量を確認します。
 - ⑤ 少なければ給油、多ければドレンプラグを外し、抜き取ります。
 - ⑥ 点検でオイル量が不足している場合は、給油口から適量を補充します。
- エンジンオイルは定期的な交換をお願いします。アワメーターで100時間使用毎に交換してください。
 - 新車購入時は、最初の50時間で交換してください。
 - エンジンオイルの入れ過ぎは出力低下やエンジン全損の原因となりますのでご注意ください。



2 エンジンオイルフィルター

動画でCHECK！



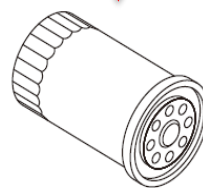
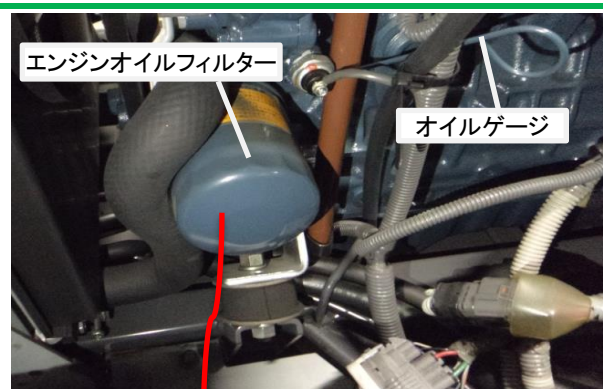
- 【働き】 ● エンジンオイルのゴミを除去します。
● フィルターがゴミで詰まるとエンジンオイルの交換を早める原因になるとともにエンジン寿命を縮める原因となります。

点検方法

- ① 外観からは判断できません。
- ② エンジンオイル交換2回に1回(アワメーター200時間毎)は交換を行います。(新車購入時は最初の50時間経過後のエンジンオイル交換時にフィルターも交換してください。)

交換方法(調整方法)

- ① エンジンオイルが完全に抜けたらオイルフィルターをフィルターレンチを使用して外します。
- ② 新しいフィルターのOリングにエンジンオイルを薄く塗り、指定された強さで締め付けます。(基本的には手で締め付けます。)
- ③ エンジンオイル給油後、エンジンを5分程度低速運転し、オイルランプの異常や油漏れがないか確認します。
- ④ エンジン停止後、エンジンオイルの量を再度点検します。



フィルターレンチ

3 防塵スクリーン

動画でCHECK！



- 【働き】 ● ラジエータにホコリや虫の付着を防ぎます。
● 掃除をしないで目詰まりが起こると、ラジエータへの空気の流れがとどこおり、オーバーヒートの原因となります。

点検方法

- ① スクリーンにゴミの付着がないか確認します。
- ② エンジンルームを開いて、ラジエータやエンジンルーム内のゴミも確認します。

交換方法(調整方法)

- ① エアコンプレッサーでスクリーンに付着したゴミを吹き飛ばします。
 - ② エンジンルーム内のゴミも同様にエアーで吹き飛ばします。
 - ③ ラジエータフィンの周りにはオイルクーラーフィンやコンデンサーフィン(キャビン仕様)等も配置されています。同様にエアーでゴミを吹き飛ばします。
 - ④ スクリーンを抜き出せる場合は抜き出し、ブラシや清水できれいに掃除し、元の状態にもどします。
- ラジエータフィンはヘラ等固いもので掃除しないでください。変形の恐れがあります。
 - エアクリーナー吸入口等には絶対に水をかけないように注意してください。



4 冷却水

動画でCHECK！



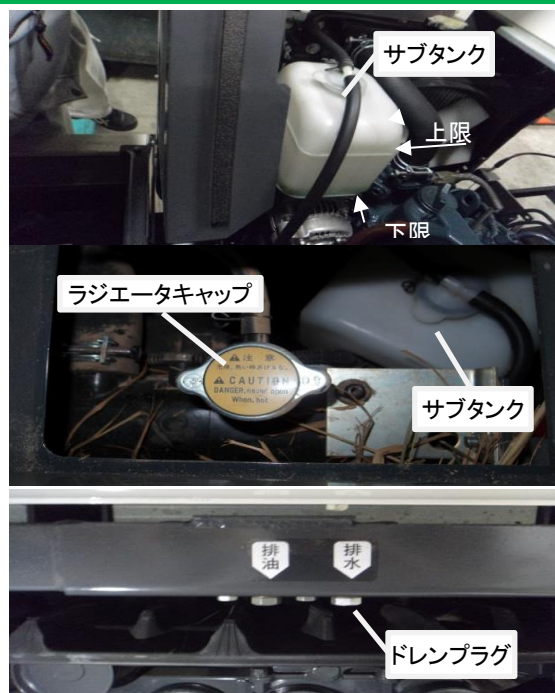
- 【働き】 ● エンジンを冷却します。
● 冷却水が不足したり劣化するとエンジンのオーバーヒートの原因となります。

点検方法

- ① サブタンク(リザーブタンク)の冷却水の量が上限と下限の間にあることを確認します。
- ② 冷却水の量の点検は、エンジンが冷えた状態で実施します。

交換方法(調整方法)

- ① サブタンク内の冷却水が下限より少ない場合は、上限まで冷却水を補給します。
- ② 交換する場合は、ラジエータキャップとドレンプラグを外してラジエータ内の冷却水をすべて抜きます。
- ③ ラジエータキャップを外す場合は、必ずエンジン停止後十分にエンジンが冷えている状態で行います。(エンジン高温時は熱湯が噴出し危険です。)
- ④ ドレンプラグを取り付け、冷却水を必要量入れた後、ラジエータキャップを取り付けます。
- ⑤ 冷却水に色が付いている場合、凍結防止のための不凍液が入っています。不凍液を入れる場合は混合比に注意してください。



5 ラジエータホース

動画でCHECK！



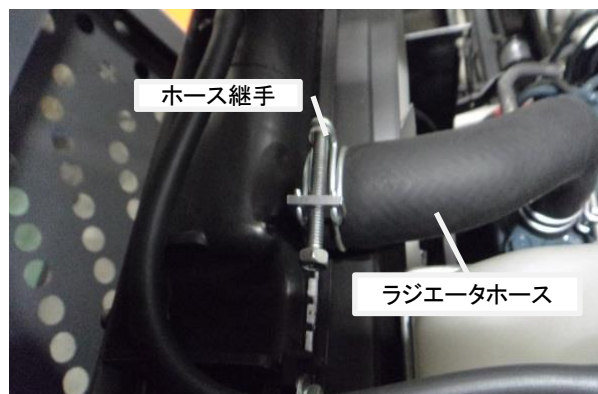
- 【働き】 ● ラジエータとエンジンの間の冷却水の通路です。
● 漏れが発生するとエンジンの冷却ができず、オーバーヒートの原因となります。

点検方法

- ① ホースからの水もれやホース表面の亀裂、剥がれ、硬化等の損傷・劣化を確認します。
- ② ホース継手部にゆるみや漏れがないか確認します。

交換方法(調整方法)

- 交換が必要な場合はJA農機センターにご相談ください。



6 ファンベルト

動画でCHECK！



- 【働き】 ● 冷却水を循環させるポンプや発電装置を動かすためにエンジンの動力を伝達します。
● ベルトの摩耗、亀裂等によるたわみにより、オーバーヒートやバッテリーの充電不足の原因となります。

点検方法

- ① ベルトの中間(プーリーとプーリーの間)を指で押さえ、たわみ量が規定値どおりか確認します。
- ② たわみの規定値は取扱説明書で確認してください。
- ③ ベルトに破損や摩耗がないか確認します。

交換方法(調整方法)

- ① ベルトのたわみが規定値と異なる場合はベルトの張りを調整します。
- ② 張りの調整はオルタネータの取付ボルトを緩めオルタネータを移動して調整しますが、具体的には取扱説明書で確認してください。(ベルトの張りボルトが別途用意されている場合もあります。)
- ③ ベルトの交換が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。



7 燃料フィルター

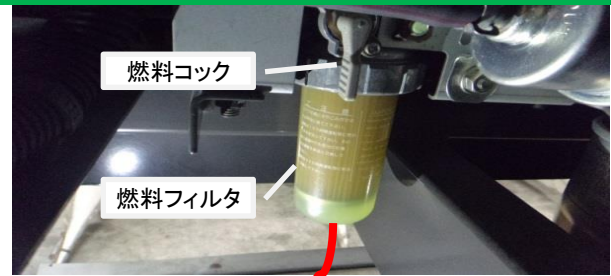
動画でCHECK！



- 【働き】 ● 燃料に混入したゴミや水を取り除きます。
● 長い間掃除をしないとエンジンの出力低下や始動性悪化の原因となります。

点検方法

- ① 目視でゴミ等の有無を確認します。
- ② ゴミがある場合は、燃料コックを閉じてフィルタエレメントを取り外し、カップおよびエレメントを軽油で洗浄します。
- ③ エレメントを取り付け、燃料のエア抜きをします。エア抜きの方法は取扱説明書で確認してください。
- ④ 目視で確認できない場合は、定期的な交換が必要です。取扱説明書で確認してください。



交換方法(調整方法)

- ① アワメータ300～400時間毎にエレメントを交換します。交換時期は取扱説明書で確認をお願いします。
- ② エレメントの購入についてはJA農機センターにご相談ください。
- ③ エレメント交換後はエア抜きを行います。



＜燃料フィルタを分解した様子＞



＜目視で確認できない
フィルタの例＞

8 燃料ホース

動画でCHECK！



- 【働き】 ● 燃料タンクからエンジンまでの燃料の通路です。
● ホースの破損等により燃料漏れが発生するとエンジン始動困難、火災発生の原因となります。

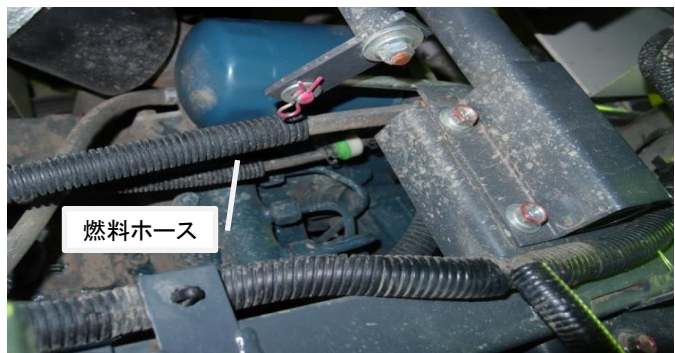
点検方法

- ① 燃料ホースの亀裂等破損による燃料漏れがないか確認します。
- ② ホース継手のゆるみを確認します。



交換方法(調整方法)

- 交換が必要な場合はJA農機センターにご相談ください。



9 エアクリーナ

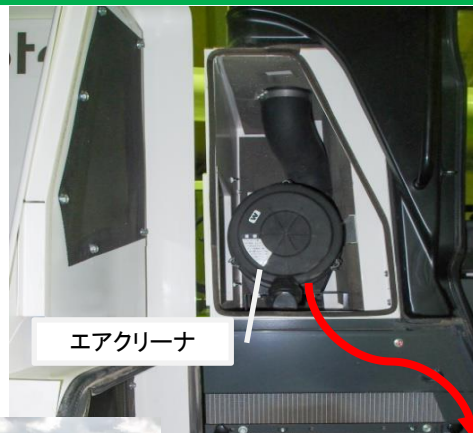
動画でCHECK！



- 【働き】 ● エンジンが取り込む空気の塵やホコリを除去します。
● エアクリーナが汚れると黒煙発生やエンジン内部の摩耗の原因となります。

点検方法

- ① エアクリーナの蓋を取り外し、エレメントを抜き出します。
- ② エレメントの変形や目詰まりを確認します。
- ③ 塵やホコリはエアーで吹き飛ばします。
- ④ エアクリーナの寿命を延ばす目的でプレクリーナを搭載する型式もあります。プレクリーナは基準線以上にホコリが溜まった場合、分解してホコリを取り除きます。



エアクリーナ



プレクリーナ



交換方法(調整方法)

- エレメントを交換する場合はJA農機センターにご相談ください。
- エレメントは定期的に交換してください。アワメータで50時間毎の清掃、300時間毎の交換をお願いします。

10 バッテリー

動画でCHECK！



- 【働き】 ● エンジン始動や各電気装置の電源となるとともに発電された電気を蓄えます。
● バッテリー液の不足やターミナルの錆等によりエンジン始動困難、自動化装置不調の原因となります。

点検方法

- ① バッテリー液が規定量入っているかインジケータや側面の上限下限ラインで確認します。不足している場合は該当の仕切りのキャップを外し蒸留水を規定量まで補充します。
 - ② ターミナル部分に腐食が発生していないか確認します。
- バッテリー液を入れすぎると充電時にバッテリー液が吹き出し、金属部分の腐食の原因となります。



バッテリー



インジケータ

交換方法(調整方法)

- ① 充電が不足している場合は、コンバインからバッテリーを外して充電します。
 - ② バッテリーをコンバインから外す場合は、必ずキースイッチをオフにしマイナス(黒)コードを外し、次にプラス(赤)コードを外します。(取付の場合は逆の手順となります。)
 - ③ バッテリーを交換する場合は規格に注意し準備します。
 - ④ 端子が腐食している場合は、ワイヤブラシ等で取り除きます。
- 取付の場合は逆の手順となりますが、プラスとマイナスを間違わないよう注意してください。

インジケータ付のバッテリーの場合、インジケータでバッテリーの状況を判断できます。
＜インジケータの例＞

- :正常
- :充電不足(充電が必要)
- :バッテリー液不足(蒸留水の補給)

バッテリーによりインジケータの表示や見方が異なります。バッテリーの説明書で確認し

11 ヒューズ・配線

動画でCHECK！



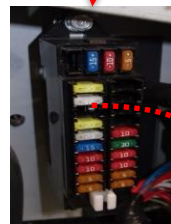
- 【働き】
- 過電流が流れた時、ヒューズが切れて配線を保護します。
 - ヒューズが切れた場合、電気部品の作動不良の原因となります。
 - 配線が損傷した場合、ヒューズ切れや火災、電気装置の作動不良の原因となります。

点検方法

- ① 機能していない箇所があった場合、ヒューズを確認し、断線している場合は同じ容量(アンペア)のヒューズと交換します。
- ② ヒューズには様々な種類があります。取扱説明書で種類を確認してください。
- ③ 配線やカプラー等に破損がないか確認します。また、可動部と接触していないか確認します。
- ④ 配線の被覆がはがれている場合はビニールテープ等で補修します。

交換方法(調整方法)

- 配線が断線している場合は、JA農機センターにご相談ください。



12 ミッションオイル

動画でCHECK！



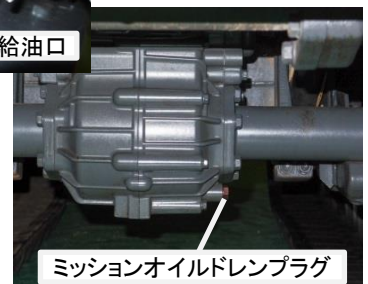
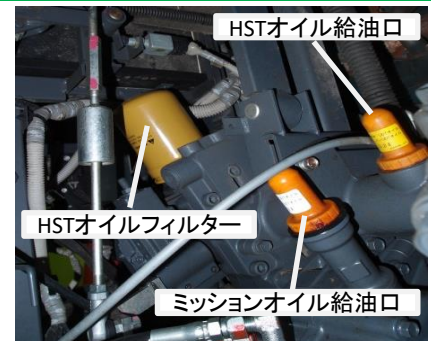
- 【働き】
- ミッション内部の潤滑、冷却、防錆機能を果たします。また、油圧装置の作動油として使用します。
 - 劣化や量の不足により油圧装置の作動不良の原因となります。

点検方法

- ① ミッションオイルは刈取部を最上げにして点検・交換します。必ず油圧をロックしてください。
- ② ミッションオイルは油圧と兼用している機械が多いが、HSTとミッション、油圧が独立している場合もあります。
- ③ 検油窓または検油ボルト等でオイルの量を確認します。
- ④ 検油ボルトの場合は、ボルトを外してオイルが出てくれば適正量、出てこない場合は不足しています。検油窓の見方は取扱説明書で確認してください。

交換方法(調整方法)

- ① エンジン停止後、十分に冷めてから行います。
 - ② ドレンプラグを外してオイルを抜き取ります。
 - ③ ドレンプラグを取り付け後、給油口からミッションオイルを規定量入れます。規定量およびオイルの規格については取扱説明書で確認してください。
 - ④ ミッションオイルを交換した場合、ミッションオイルフィルターも同時に交換します。交換要領はエンジンオイルフィルターと同様です。
- ミッションオイルおよびミッションオイルフィルターはメーカーにより交換時期の目安が指定されています。取扱説明書で確認してください。



13 引きし爪

動画でCHECK！



- 【働き】 ● 稲や麦を引き起こし、搬送姿勢を整えます。
● 爪が摩耗、破損すると搬送不良が発生し詰まりの原因となります。

点検方法

- ① 爪の摩耗や変形、破損がないか確認します。



交換方法(調整方法)

- 交換が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。



14 刈刃

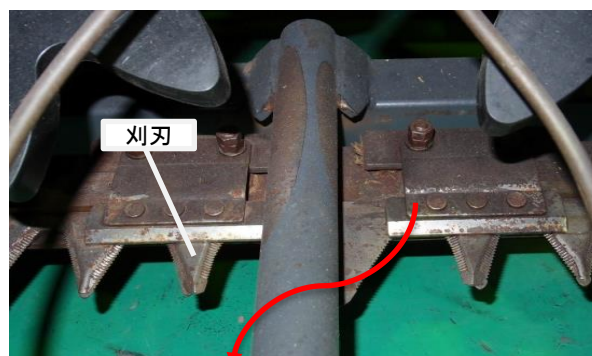
動画でCHECK！



- 【働き】 ● 稲や麦を株元で切断します。
● 刈刃が摩耗したり欠けたりすると、刈残しや刈取り部の詰まりの原因となります。

点検方法

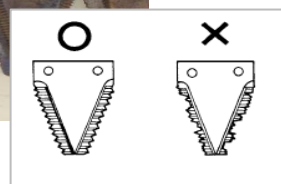
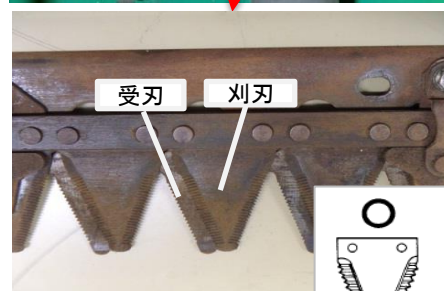
- ① 刃が摩耗、破損していないか確認します。
② 刈刃と受刃の隙間が広がっていないか確認します。
● 点検を行う場合は、刃先を絶対にさわらないでください。
● 刈取部を上げて確認する場合は、必ず刈取部ロックスイッチをロックしてください。



交換方法(調整方法)

- 交換が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。

＜刈取部ロック
スイッチの例＞



15 各部チェーン

動画でCHECK！



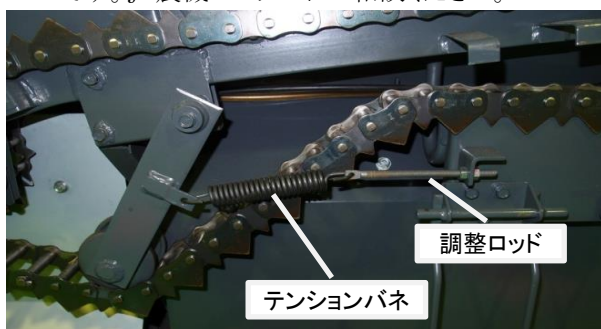
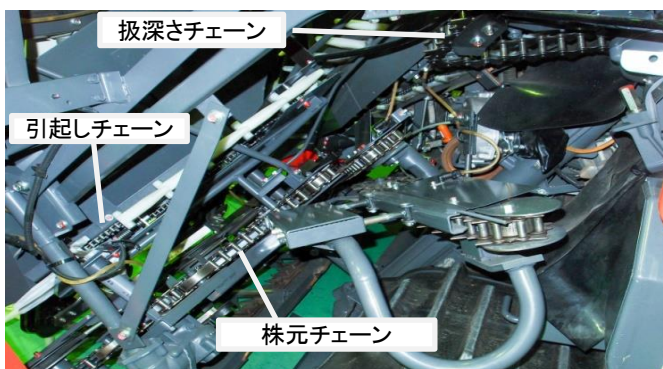
- 【働き】 ● 稲や麦を搬送します。
● チェーンが摩耗したり緩むと搬送不良や詰まりの原因となります。

点検方法

- ① 各チェーンにゆるみがないか確認します。
- ② 各チェーンのゆるみの確認方法は、取扱説明書で確認してください。

交換方法(調整方法)

- ① チェーンのゆるみはテンションバネの長さ等で調整します。調整方法は取扱説明書で確認してください。
- ② チェーンの摩耗が著しい場合は、交換が必要です。JA農機センターにご相談ください。



16 受網(脱穀部)

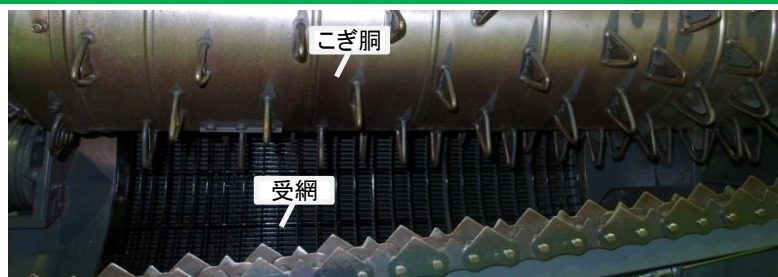
動画でCHECK！



- 【働き】 ● こぎ胴との作用により脱粒を行い、粃と稈の選別を行います。
● 受け網が摩耗や破損すると、選別不良やこぎ残しの原因となります。

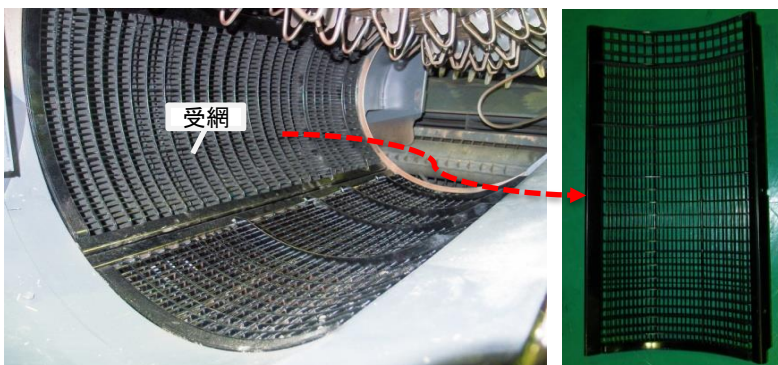
点検方法

- ① 脱穀部をオープンし、受け網の目詰まり、摩耗、破損の有無を確認します。
 - ② 目詰まりがある場合は、受け網を外して清掃します。
- 脱穀部オープンや受け網の着脱方法は取扱説明書で確認してください。



交換方法(調整方法)

- 摩耗が激しい場合や破損している場合は交換が必要となります。JA農機センターにご相談ください。



17 こぎ歯(脱穀部)

動画でCHECK!



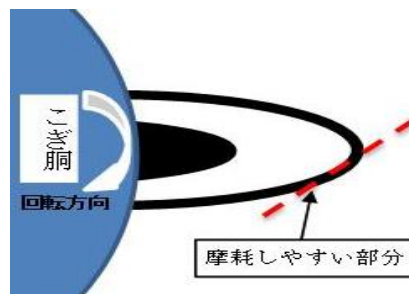
- 【働き】
- 作物の脱粒を行います。
 - 摩耗や変形、欠損が発生するとこぎ残しや枝梗付着粒の増加、馬力ロスの原因となります。

点検方法

- ① 脱穀部をオープンし、こぎ胴のこぎ歯の変形・摩耗・欠損がないか確認します。

交換方法(調整方法)

- こぎ歯に異常がある場合は交換が必要となります。JA農機センターにご相談ください。



18 わら切刃(脱穀部)

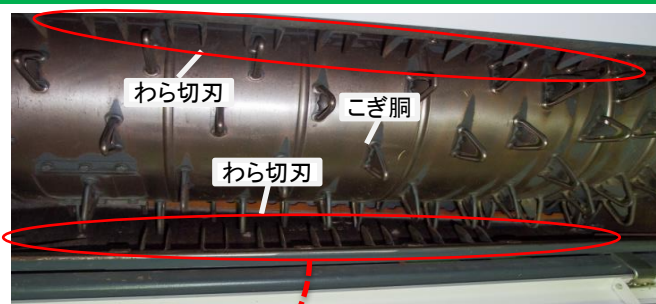
動画でCHECK!



- 【働き】
- 脱穀部内のわらを細かく切断します。
 - 刃の摩耗や破損が発生するとこぎ残しや馬力ロスの原因となります。

点検方法

- ① 脱穀部をオープンし、わら切刃を取り外し、摩耗や破損がないか確認します。
- ② わら切刃は、機械により取付場所が異なり、複数個所に取り付けられている場合があります。取扱説明書で確認を行い取り外してください。



交換方法(調整方法)

- ① 摩耗や破損が発生している場合は交換が必要です。
- ② 交換が必要な場合はJA農機センターにご相談ください。



19 各部ベルト

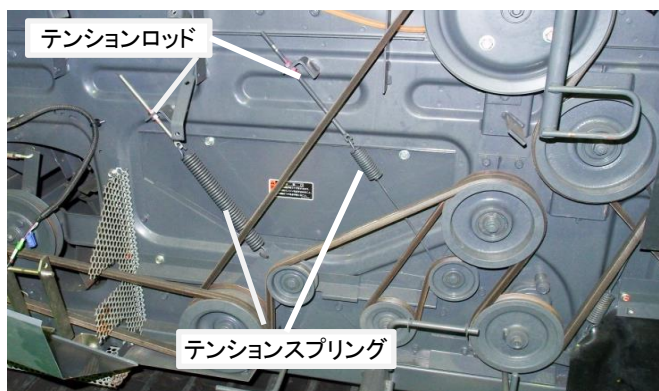
動画でCHECK!



- 【働き】 ● エンジンの動力を脱穀部やカッター等に伝え駆動します。
● ベルトのゆるみ、摩耗、劣化、亀裂等により、動力伝達不良となり脱穀部等のつまりの原因となります。

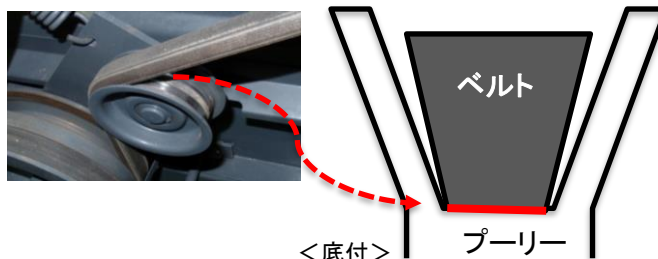
点検方法

- ① 各ベルトのたわみが基準値となっているか確認します。
 - ② テンションスプリングの長さの等基準値は取扱説明書で確認してください。
 - ③ あわせてベルトの摩耗、損傷、亀裂、底付等の有無を確認します。
- 底付とは、ベルトの内面とプーリーの底面が接触している状態を言います。



交換方法(調整方法)

- たわみが発生したり、テンションスプリング等が基準値と異なる場合は、テンションロッド等で調整します。詳細は取扱説明書で確認をお願いします。
- ベルトが摩耗、破損、底付している場合は交換が必要です。JA農機センターにご相談ください。



20 カッター刃

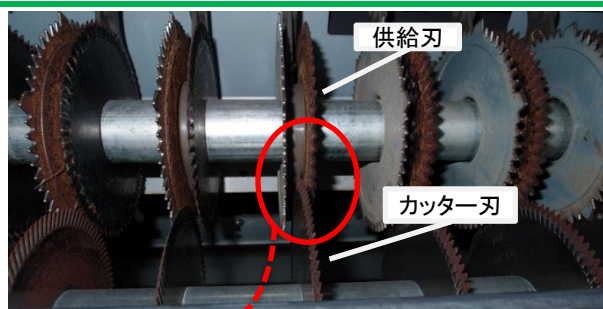
動画でCHECK!



- 【働き】 ● 脱穀後の排わらを切断します。
● カッター刃が摩耗、破損すると排ワラの切断長が長くなったり、カッターの詰まりやベルト破損の原因となります。

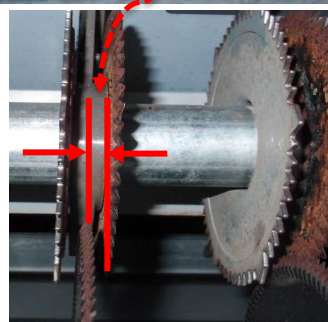
点検方法

- ① カッター部をオープンし、カッター刃(高速刃)と供給刃(低速刃)の隙間が基準値どおりか確認します。基準値は取扱説明書で確認してください。
 - ② カッター刃の摩耗や破損を確認します。
- 点検を行う場合は、刃先に絶対にさわらないよう注意してください。



交換方法(調整方法)

- カッター刃の調整や交換が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。



<供給刃とカッター刃の隙間>

21 クローラ

動画でCHECK！



- 【働き】 ● 走行(移動)を行います。
● クローラが摩耗、破損するとクローラのすべりや外れ、破損の原因となります。

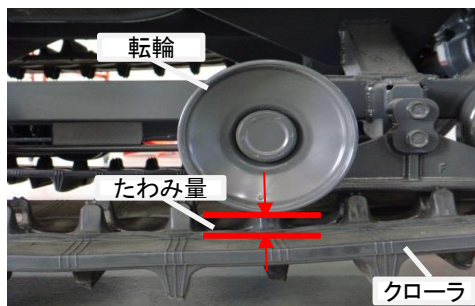
点検方法

- ① クローラに摩耗や亀裂がないか確認します。
- ② クローラのたわみの確認を行います。たわみの確認はジャッキアップした後、クローラと転輪の隙間を確認します。詳細は取扱説明書で確認してください。(隙間を図る転輪の場所は型式によって異なります。)



交換方法(調整方法)

- ① たわみの調整が必要な場合は、取扱説明書にもとづき調整してください。
- ② 交換が必要な場合はJA農機センターにご相談ください。



22 エアコンフィルター

動画でCHECK！



- 【働き】 ● キャビン内を冷却する空気の塵やゴミを除去します。
● エアフィルターが汚れている場合、冷却効率低下の原因となります。

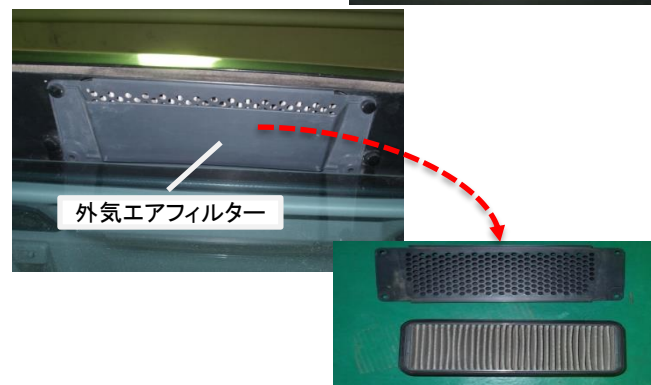
点検方法

- ① 室内と外部にエアフィルターがあります。それぞれの汚れを確認します。
 - ② フィルターは中性洗剤やエアーで洗浄します。
 - ③ 取り外し方法および洗浄方法は取扱説明書で確認してください。
- エアコン機器はフロン排出抑制法により3カ月に1回以上の簡易点検が義務付けられています。点検方法は取扱説明書で確認してください。



交換方法(調整方法)

- ① 室内と外部のエアフィルターの取り外し方法は取扱説明書で確認してください。
- ② フィルターはエアーや中性洗剤で洗浄しますが、メーカー、型式により洗浄方法が異なりますので詳細は取扱説明書で確認してください。



23 各部の注油とグリスアップ

動画でCHECK！



- 【働き】
- 回動部や摺動部の動きの円滑化や錆止めの役割を果たします。
 - 適切な注油を怠ると部品の摩耗が早まり、故障の原因となります。

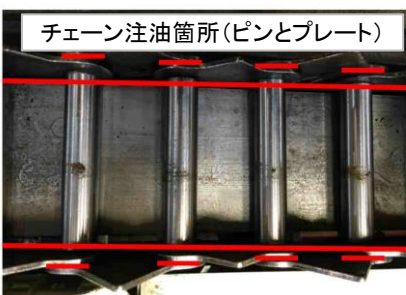
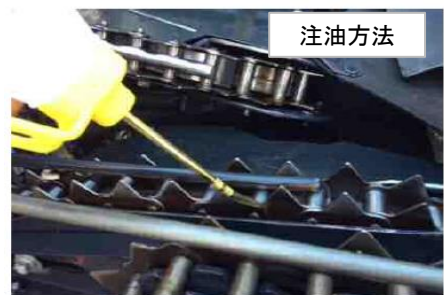
点検方法

- ① 刈取作業を始める前や各部の清掃を行った後は、各部の注油やグリスアップを行います。
- ② コンバインには、刈取部やフィードチェーン等に一括注油する集中注油装置があります。集中注油の方法は取扱説明書で確認してください。(型式により注油できる箇所が異なります。)
- ③ 集中注油タンクのオイル量が少ない場合は補給します。刈取作業前は必ず確認してください。
- ④ 注油箇所には集中注油のほか各部チェーンの手差し注油や走行部・グレンタンク部のグリスアップ等あります。機械により注油箇所は異なりますので取扱説明書で確認してください。

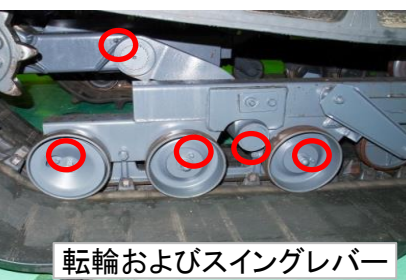
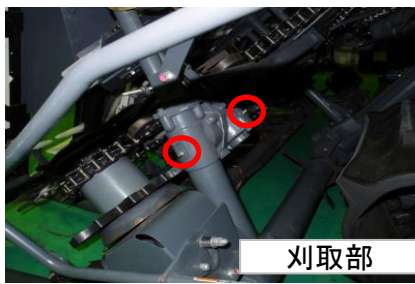
＜集中注油の例＞



＜手動注油箇所の例＞



＜グリスアップ箇所の例＞



24 各部の掃除

- 品種や稲・麦の混合を避けるためには、刈取り作業終了後に機体内のこく粒やゴミをきれいに取り除く必要があります。
- 機体内に粃やわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線をかじられて故障の原因となります。

- ① 刈取り作業後、粃の排出がすべて終わった後、脱穀部を3分程度空運転し、脱穀部を停止した後、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけます。
- ② 掃除箇所は、脱穀部、グレンタンク、排出オーガ、各部搬送スクリュ等の粃がたまる箇所や、刈取部や各部チェーンやベルト駆動部分、カーター等のわら屑がたまる箇所があります。取扱説明書に従い、各部の掃除口を開き、きれいに掃除します。

動画でCHECK！



25 長期格納時の注意事項

- ① 掃除口をすべて解放し、エンジンをかけ、脱穀クラッチを入れて脱穀部を駆動し、機体内の粃や屑を排出します。
- ② エンジン停止後、脱穀部の受網を外してエアブローし、粃や屑を取り除き、受網を元に戻します。
- ③ 走行部の泥をきれいに掃除します。
- ④ 乾燥した風通しの良い場所に刈取部を下げて格納してください。
- ⑤ 燃料タンクは満タンにします。
- ⑥ バッテリーは完全に充電し、なるべく機械から取り外して風通しの良い冷暗所に保管します。バッテリーを本機に取り付けたまま保管する場合は、必ずマイナス端子を外しておきます。
- ⑦ 各油圧シリンダーの防錆運転のため、1～2か月毎にエンジンをかけて、刈取部やオーガを最上昇位置まで1～2回操作し、リフトシリンダーを全ストローク伸縮させます。

メンテナンス日誌

実施日	点検チェックおよび不良個所			備考
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. バッテリー ☐ 13. 引起し爪 ☐ 16. 受網 ☐ 19. 各部ベルト ☐ 22. エアコンフィルター 不良個所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. ヒューズ・配線 ☐ 14. 刈刃 ☐ 17. こぎ刃 ☐ 20. カッター刃 ☐ 23. 各部の注油とグリスアップ	☐ 3. 防塵スクリーン ☐ 6. ファンベルト ☐ 9. エアクリーナ ☐ 12. ミッションオイル ☐ 15. 各部チェーン ☐ 18. わら切刃 ☐ 21. クローラ	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. バッテリー ☐ 13. 引起し爪 ☐ 16. 受網 ☐ 19. 各部ベルト ☐ 22. エアコンフィルター 不良個所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. ヒューズ・配線 ☐ 14. 刈刃 ☐ 17. こぎ刃 ☐ 20. カッター刃 ☐ 23. 各部の注油とグリスアップ	☐ 3. 防塵スクリーン ☐ 6. ファンベルト ☐ 9. エアクリーナ ☐ 12. ミッションオイル ☐ 15. 各部チェーン ☐ 18. わら切刃 ☐ 21. クローラ	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. バッテリー ☐ 13. 引起し爪 ☐ 16. 受網 ☐ 19. 各部ベルト ☐ 22. エアコンフィルター 不良個所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. ヒューズ・配線 ☐ 14. 刈刃 ☐ 17. こぎ刃 ☐ 20. カッター刃 ☐ 23. 各部の注油とグリスアップ	☐ 3. 防塵スクリーン ☐ 6. ファンベルト ☐ 9. エアクリーナ ☐ 12. ミッションオイル ☐ 15. 各部チェーン ☐ 18. わら切刃 ☐ 21. クローラ	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. バッテリー ☐ 13. 引起し爪 ☐ 16. 受網 ☐ 19. 各部ベルト ☐ 22. エアコンフィルター 不良個所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. ヒューズ・配線 ☐ 14. 刈刃 ☐ 17. こぎ刃 ☐ 20. カッター刃 ☐ 23. 各部の注油とグリスアップ	☐ 3. 防塵スクリーン ☐ 6. ファンベルト ☐ 9. エアクリーナ ☐ 12. ミッションオイル ☐ 15. 各部チェーン ☐ 18. わら切刃 ☐ 21. クローラ	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. バッテリー ☐ 13. 引起し爪 ☐ 16. 受網 ☐ 19. 各部ベルト ☐ 22. エアコンフィルター 不良個所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. ヒューズ・配線 ☐ 14. 刈刃 ☐ 17. こぎ刃 ☐ 20. カッター刃 ☐ 23. 各部の注油とグリスアップ	☐ 3. 防塵スクリーン ☐ 6. ファンベルト ☐ 9. エアクリーナ ☐ 12. ミッションオイル ☐ 15. 各部チェーン ☐ 18. わら切刃 ☐ 21. クローラ	

This image shows a single sheet of white paper with rounded corners. It features horizontal ruling lines spaced evenly down the page. The lines are thin and black, providing a guide for handwriting. There are no margins, text, or other markings on the paper.